

共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No. 4

2012年2月29日 大会執事活動委員会

* 東日本大震災から1年の時を覚えて

東日本大震災からまもなく1年の時が過ぎようとしています。この1年を振り返りますと、未曾有の大災害の中で、主が与えてくださいました出会いがあり、新たな交わりが生まれ、奉仕の場が開かれ、そのために仕える兄弟姉妹が起こされ、一步一步主が導いて下さいました恵みを一つ一つ数えながら、御名を崇めます。と同時に、未だに本質的な解決の道筋が見えない厳しい現実の中で、多くの方々が今も尚、深い悲しみと孤独と不安の中にいらっしやることを思い、より一層祈りを深め、共に生きる献身の決意を新たにされたいと切に願います。そのような祈りと願いを込めて、東仙台教会の中村里子姉のお証をご紹介します。

東日本大震災・津波の体験に思うこと

東仙台教会 中村里子



ちょうど仙台に孫を迎えに行くために乗った電車が、仙石線野蒜駅をPM2時46分発で動き出して間もなくのことでした。突然の大きな揺れに、一瞬あの“宮城県沖地震”かと思い、手すりにしがみつきました。揺れはしばらく続きました。車内には7,8人の女性客だけが乗っていましたが、「家が近くなので帰ってみたい」と言い出す人がいたり、また何がおかしいのか大笑いしていた4,5人の女性たちもいました。その時、私は「静かにしてください」と思わず大声で叫んでいました。

慌ただしく行き来していた車掌さんから「下車するように」と指示があり、前の車両の入り口にはしごがかけられて、一人ずつ線路に降りました。小雪が降る寒さの中、乗客が全員そろうまで

近くの家の車庫で待っていました。その時、一人の紳士が携帯電話で見ていたニュースをのぞかせていただき、津波が仙台湾を襲ったことを知りました。乗客が全員集まるとすぐに、避難所になっている野蒜小学校の体育館まで誘導されていきました。最初はどこを歩いているのか分かりませんが、そのうちに我が家の近くだったことがわかり、何故かほっとして我が家を横目にして進み、迷わずに野蒜小学校の体育館に避難しました。

体育館の入り口にはたくさんの靴が脱いであったので、かばんの中にビニール袋が入っているのを思い出し、靴をその中にいれました。体育館の中には近所の方や知人も見えていました。地震の恐ろしさを話し合っているのか、何やら騒然としていました。ちょうど私が座ったところの隣にまた一人の青年が携帯電話を見て、「宮戸の島に7mの津波が来ている」と教えてくれました。私はすぐに立ちあがって「早く小学校の3階に避難させて欲しい」と思い、入り口の所まで行き、そこで指示を待っていたら、「もうしばらく待ってください!」と言う声が聞こえ、間もなく「上に登って!」と悲痛な叫び声が体育館の中に響き、皆さん一斉に2階のロビーを目指して2つの狭い階段を急いで駆け上りました。そのすばやい行動でたちまち体育館のロビーはいっぱいになりました。聞く所によると150名余りの方がロビーに登っていたと聞きました。足の悪い方や水の中から引き上げられた方、流されて水死された方など、それは夢みているような混乱ぶりでした。

私は二階のロビーから小学校の校庭を眺め、津波の様子を見ていました。外国の津波のニュースそのまま、車、車、様々なものが生き物のように流されていました。そして、2階のロビーのすぐ下まで水かさが増す勢いに、ただ「主よ、憐れみたまえ」と繰り返すだけでした。

その悲惨な状況の中で、心温まる光景も垣間見ることができました。子どもを救い出す人々や家族の絆、その使命からか、寒さの中シャツ一枚で救助に汗を流しておられた小学校の先生方、若い人たちに声がけして車に残された人を助けるためにロープで引き上げる人々。暗がりの中で声を掛け合う子どもたちの元気な声、暗い闇の中、余震のたびに窓から離れるよう話し続けていた先生。裸足の人が多かったので、小学校に移動するために、消防の方々も自分たちのことを省みずに時間をかけて足場を作ってくれました。夜 10 時頃から移動が始まったのですが、小さい子どもから、身体の弱っている人や高齢者と、弱者から一人ずつ手を取っていただきながら、まだ水の残る瓦礫をかきわけた狭い通路を移動することができました。学校の入り口には車が突っ込まれていて入り口が狭くなっており、両手に荷物を持ったままでは入れませんでした。

やっと学校の 3 階の教室に移ることができました。一つの教室に入りましたが、中は人でいっぱい戸口に立つしかなく、それでも明かりもあり、いくらか暖かく、一人でも多く入れるように気を配っていました。教室の入り口は何度も開き、安否を気遣う家族の声がよく聞かれました。教室には、ずぶぬれの両親を気遣う青年、寒さで震えながら救急車を待っている高齢の婦人たち、幼い子らも何人か床で眠っていて、その足に手袋が履かせてあり、その近くでは知らない子どもたちを若い婦人たちが見守っていました。夕食にスライスパン 1 枚とお茶の差し入れがあり、小さい子どもたちが皆に渡るように声をかけながら配っていました。ふと頭の上の方を見上げると、重ねてあった椅子の上に男性が座っており、驚いて声をかけると「車で学校に降りてきたところで津波が来て、窓を開けて外に出て助かった」と静かに話してくれました。一人ひとりが様々な状況の中で津波にあいながら、互いに助け支えあっていた様子を見、何か温かなものを感じつつ、その晩は立ったまま夜が明けるのを待っていました。朝方、近くに住んでいた親戚の者が迎えに来てくれ、野蒜小学校から他の避難所に連れていかれました。

人生の中でこんな出来事に出会うとは、誰も考えていなかったのではないのでしょうか。多くの人たちが犠牲になりました。私自身は 4 日目から東山台教会、4 月からは娘の家に避難し、愛する家族や教会の交わりが与えられました。また、多くの温かな心のこもった助けや親切を毎日与えられ、ある方に「わたしは、何か得をしたみたい」とお礼のハガキを出したほどです。また、早くから、近くから遠くから、雪道の中を駆けつけてくださった先生方、宣教師の方々、ボランティア活動のために来てくださった青年方の励ましやお交わりなど、主にある者の幸いを深く味わわせてくださいました。あれから 8 ヶ月がたちました。気持ちも落ち着きを取り戻してきました。かげながら祈り続けてくださっている兄弟方、被災地のために援助物資やお見舞いなど、本当に神様の恵みと憐れみとを新たにさせられております。

これからの残された日々、主のものとして、ふさわしく歩めるよう願わずにいられません。悲しみも悩みもすべての状況を主がご存知であり、わたくしたちを愛してやまない唯一の生ける主なる神様が存在されるから、安んじて、希望をもって、主の導きにゆだねていきたいと思っています。

『こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。』（ヘブライ 12 : 1~2）。

* 原子力災害等の避難場所についてのお知らせ

日本キリスト改革派教会では、昨年より修養・研修施設である「雀のお宿キリスト教会館」（岐阜県恵那市）において、緊急時の避難者を受け入れることとしてまいりました。原発事故後の放射性物質の拡散、除染の困難さなど問題の長期化が見られます中で、一時避難、短期疎開、休暇中のキャンプなどの利用につきましても、同施設が利用できますことを改めてお知らせいたします。「雀のお宿」は、キリスト者や教会関係者に広く開放しております。

なお、施設利用に当りましては、利用者の責任において利用規定に従っていただきますと共に、利用献金をお願いしております。具体的なご利用につきましては「利用の手引き」のご用意がございますので、関係委員会までお問い合わせください。

また、この度の福島原発事故における放射線対策としての一時避難、リフレッシュのためのキャンプ等につきましても、大会執事活動委員会より、利用料、食費、交通費等につきまして援助をさせていただく制度があります。援助を希望される場合には、別途「避難援助金申請書」と必要な証明書類をご提出いただくこととなります。援助制度についてのご質問、お申し込みは日本キリスト改革派教会東北中会伝道委員会ないしは大会執事活動委員会各担当者までお願いします。

大会執事活動委員会 杉山 048-474-9237 雀のお宿委員会・望月 0568-51-0011 東北中会伝道委員会・仙台教会 022-225-0597

放射線測定器の貸し出しについて

昨年度に引き続きまして、環境放射線モニタ「Radi (PA-1000)」(堀場製作所製、シンチレーション式、測定範囲 0.001~9.999 μ SV/時、誤差+10 パーセント以内、ただし、放射線核種(ヨウ素、コバルト、ウラン、セシウムなど)の種類は判定できません、また食物検査は出来ません)の貸し出しを行っております。現在、東北中会では仙台教会、亘理伝道所に各一台、東関東中会は三郷教会、東部中会は新座志木教会にそれぞれ各一台配置されています。この内三郷教会、新座志木教会では、それぞれの中会教会・伝道所に貸し出しを随時受け付けております。申し込みの形式は問いませんが、利用ご希望の場合には、手紙、電子メール、FAX など、必ず書類が残る形でお申し出下さい。また、利用料は無料ですが、配送ご希望の場合、送付・返送の送料実費をご負担ください。「又貸し」はご遠慮ください。その他具体的にご利用についてのご相談は担当教会にお問い合わせください。(東関東) 三郷教会 048-957-0169 (東部) 新座志木教会 048-474-9237 (文責: 大会執事活動委員会委員 杉山昌樹)

* 東仙台教会奉仕活動報告

① 「おはなカフェ」で餅つき大会



昨年の夏頃から毎月 2~3 回、水曜日のお昼に、ひびき工業団地周辺の仮設住宅の方々と、仮設住宅の近くにある「川下地区センター」という所をお借りして「おはなカフェ」という集会を行っております。この集会は、「クラッシュジャパン」というキリスト教の支援団体が協力してくださっています。1月25日には、この会で「餅つき大会」を行い、約 40 名の地域の方々が参加してくださいました。東仙台教会からも 12 名が参加しました。私たちが上手に餅をつけないのを見て、お父さんたちが「みてられん」と言って、積極的に手伝ってくれました。ついたお餅を切ったり、あんこやきな粉をつける作業もお母さんたちが手伝ってくれました。2月22日には「ワッフルパーティー」を行いました。3月は、14日と21日にそれぞれ「やきとりパーティー」と「コンサート」を計画しています。集まった方々と“一緒に何かをやる”ということを通して、地域の方々との交流がさらに深められるようにお祈りください。

② 「にじいろ遠足」、スケート

1月30日(月)、野蒜小学校の休日の日に、仙台のスケート場に遠足に行ってきました。参加者は、全体で71名(小学生46名、保護者10名、東仙台教会の奉仕者6名、日本国際飢餓対策機構の奉仕者9名)でした。子どもたちも保護者の方々も喜んで下り、とても楽しい一日でした。

ただ、小学五年生の男の子が、右膝の靭帯を切ってしまうというケガをしてしまいました。2月16日に行った手術は成功しましたが、3月末までは入院することになりました。彼は、12月に東仙台教会で行ったクリスマス・コンサートにも家族と一緒に来てくれた子でした。彼の足が一日も早く回復するように、御家族の不安が取り除かれるように、お祈りください。



(東仙台教会 立石彰牧師)

*** 新垣勉 希望のことばコンサートの祝福のためにお祈りください**



日時：2012年3月11日(日) 午後6時半(開場6時)

場所：仙台市若林区文化センター 主催：CRCメディア・ミニストリー

曲目：アメイジング・グレイス / 青い海よ / 雨ニモマケズ / さとうきび畑 他

※ 入場無料(入場には整理券が必要です)

ラジオ番組「希望のことば」では、震災から一年の日に、被災地の仙台市でコンサートを開催します。新垣勉さんはCRCメディア・ミニストリー提供番組の長年のリスナーで、この度の出演を快諾して下さいました。このコンサートが被災者の皆さんの心を癒し、教会との架け橋となりますようにお祈りください。

*** 名古屋岩の上传道所関係の祈りの課題**

第5回目の現地(亙理・山元)ディアコニアを3月18日～20日に実施します。二つの仮設住宅集会所にて、カフェ、コンサート、腹話術他を開催します。必要とされているエコバッグ(きれいなもの・ただし大きさ等は問いません)を求めています。問合せ先:岡本真理 メールアドレス mari.okmt.55@gmail.com

*** 2012年3月11日の礼拝献金は、東日本大震災を覚えて献げます。**

以下の提案が2011年6月に行われた臨時大会で可決されています。

『2012年の3月11日の礼拝献金を大会に献げることの提案

提案者：常任書記団

提案理由：東日本大震災の影響を受け、大会的に經常会計の収入減が見込まれ、定期大会開催等の大会活動に支障が生じることが予想される。これを大会全体で覚えて担うために、震災の起こった日でもある3月11日の礼拝献金を大会に献げることとする。』

この献金は東日本大震災第二期募金とは別のものです。

送金は 大会財務の振替口座：00800-5-56438 大会財務 にお願ひします。

<今月の御言葉>

「わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをわたむのか。」

(マタイによる福音書第20章14-15節)

昨年、ひとりの兄弟が、今わのきわ、主イエスの御名を唱え、天国へと召されて行かれました。生前、教会生活や奉仕はもとより、聖書を読むこともなかった方です。しかし、天の父はこの小さなひとりの兄弟にも、天国の祝福を与えて下さいました。父なる神が、それを激しく欲しておられたからです。

上記の御言葉は、「ぶどう園の労働者の譬え」の結び、神の言葉です。ぶどう園の主人は、労働者を捜しに広場に行きます。そして、朝早くから働いた者にも、夕方に来ただけのような者にも、日当である1デナリオンを均等に支払われました。しかも、最も遅く来た人々から順に、です。神は、この世が考える公平性、そこに潜む不公平さを打ち破られます。その意味で、神は不公平です。

しかし、キリスト者とは、この神の不公平の恵み、「気前の良さ」によってのみ、信仰を与えられた者に他ならないはずで。それなら、神の眼差しが、働き場・畑・家・財産そして愛する人を流されてしまった方々にこそ注がれていると信じることは、「いけない」ことでしょうか。

気前よい私どもの神は、今この時も「広場」に、捜しに出ておられます。広場、それは、とりわけ東の方ではないでしょうか。私どもも、この神と共に、神のために「広場」に出かけて行きたいのです。

(大会執事活動委員会委員 相馬伸郎)